

令和4年度日本看護協会通常総会代議員報告

岩本 千帆

令和4年度公益社団法人日本看護協会通常総会が、6月8日千葉県の幕張メッセにて開催され、代議員として参加しましたので報告いたします。今年度は、昨今の新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、参加対象者は、2022年度代議員、会員、本会役員等関係者の参加を募り、例年より規模を縮小した開催となりました。代議員は、参集541名、議決権行使書提出209名でした。

開会式では、千葉県看護協会寺口恵子会長より歓迎の挨拶があり、続いて福井トシ子会長が次のように挨拶されました。新型コロナウイルス感染症は、2年を経た今も変異しながら世界で感染拡大を繰り返しています。最前線で働く看護職の皆様に改めて深く心から敬意と感謝を申しあげます。また、ロシアによるウクライナ軍事侵攻の人道危機については、即時停戦とすべての敵対行為の停止、平和確保のためのさらなる外交交渉の開始を求めることをICNと連携共同しております。2015年に公表した看護の将来ビジョンは、医療ニーズの増大が見込まれる2025年に向けて看護がどうあるべきかを示したもので、このビジョン実現のための政策を推進し事業を展開しています。人々のいのちと暮らしを守るプロフェッショナルとしての自律と力を看護に実装してまいりましょう、と述べられました。引き続き日本看護協会長表彰がおこなわれました。今年度表彰者は150名で、和歌山県からは小泉美穂様が受賞されました。

続いて、議決・報告事項があり質疑に入りました。議長団の選出があり、和歌山県から芝瀧ひろみ様が選出されました。2022年度改選役員及び推薦委員の選出では、和歌山県看護協会東直子会長が当選されました。報告事項では、令和3年度事業報告と決算報告及び監査報告、令和4年度重点政策・重点事業並びに監査報告、資金収支予算及び収支予算について報告がありました。質疑では、看護師処遇改善など多くの質疑があり、また、和歌山県代議員の楠岡誠様が、認定看護師養成に関する当地域の現状と問題を申し出て、質問されました。それらに対する執行部の返答は、看護師処遇改善については、全看護職員の処遇改善に向けた第一歩だと考えている。すべての看護職員を対象に恒久的な措置の導入に向けて国への要望を含め取り組んでいく。認定看護師養成については、感染管理認定看護師養成推進事業を2021年から2023年まで実施し、2023年には感染管理の分野教育課程は20機関を超える見込みである。近畿地区に教育機関が少ないことについては、働きかけをおこなっている、ということでした。

閉会式では秋山智弥副会長が、この2年あまり医療の最前線で、ご活躍いただいた全ての皆様に敬意と感謝を述べられました。これからも引き続きコロナ関連の事業を続けてまいります。また、感染症に関わらず様々な有事に対して持続可能な社会に貢献できる看護活動の推進に向けて尽力していきたいと思っております、と締めくくられました。

代議員報告は以上です。